

令和3年度 県立高等特別支援学校 学校評価全体アンケート結果

評価のポイントが、2.95以上は黄色、2.54以下は水色で表示しています。

重点目標	実践目標	関連する取組(参考)	教師結果			生徒結果			保護者結果					
			アンケート(教師)	教員集計	カテゴリー別	アンケート(生徒)	生徒集計	カテゴリー別	アンケート(保護者)	保護者集計	カテゴリー別			
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	①学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。 ②夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体的計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。 ③関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	・生徒会・委員会活動 ・授業(各教科) ・部活動 ・宿泊行事、遠足に向けての取組 ・体育大会に向けての取組 ・文化祭に向けての取組 ・珠算・電卓実務検定 ・校内実習 ・特別実習 ・企業でのあいさつ実習 ・現場実習 ・進路相談会開催 ・進路セミナー開催	あいさつの力を身につけさせることができる	3.11	2.68	日頃からあいさつはできていますか	3.11	2.95	日常的にあいさつはできていますか	2.98	2.80			
			自分の思いや困ったことを伝える力をつけさせることができる	2.40		自分の思いや困ったことを伝えることはできていますか	2.57		自分の思いや困ったことを伝えることはできていますか	2.54				
			他人を思いやる心が育っている	2.63		他人を思いやる心を身につけることができますか	2.91		他人を思いやる心を身につけることができますか	2.81				
			人間関係形成能力の育成を図ることができる	2.56		友達と協力して行事等に取り組むことはできていますか	3.20		友達と協力して行事等に取り組むことはできていますか	2.86				
						自己管理能力の育成を図ることができる	2.44	2.67	金銭を自分で管理して使うことはできますか	3.09	2.79	金銭を自分で管理して使うことはできますか	2.34	2.52
						何事にも意欲的に取り組む態度の育成を図ることができる	2.89		自分のスケジュール(予定)を管理できていますか	2.75		自分のスケジュールを管理できていますか	2.47	
						マナーやルールを遵守する態度が身についている	2.95		マナーやルールを守ることはできていますか	3.20		マナーやルールを守ることはできていますか	2.91	
						自分で判断して主体的に取り組む力の育成を図ることができる	2.58		授業や行事に意欲的に取り組むことができますか	3.06		授業や行事に意欲的に取り組むことができますか	2.69	
						何事にも目標を持って取り組む態度の育成を図ることができる	2.65	3.19	言われてからではなく、自分から行動することができますか	2.43	2.82	言われてからではなく、自分から行動することができますか	2.20	2.86
						キャリアプランニング能力の育成を図ることができる	2.53		何事にも目標を持って取り組むことができますか	2.67		何事にも目標を持って取り組むことができますか	2.39	
						関係機関や企業等との連携を十分に図ることができる	3.07		学校や家庭で自分の役割を果たすことができますか	2.80		学校や家庭で自分の役割を果たすことができますか	2.72	
						職業実習、現場実習、校内実習の充実した取組ができています	3.25		将来に向けて自分の生き方を考えたことはありますか	2.68		将来に向けて自分の生き方を考えたことはありますか	2.13	
						進路について、適切な指導、情報提供、相談等ができています	3.26		進路についての情報や相談は役に立ちましたか	2.41	進路についての情報や相談は役に立ちましたか	2.82		
(2)専門職としての教職員の資質向上	④個々の実態把握に基づき、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。 ⑤教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	・就労支援研修会「発達段階とキャリア教育という視点から」 ・WISC研修会 ・陶工研修会 ・トラウマ体験研修会 ・非違行為研修 ・カウンセリングマインド研修参加報告 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会	個々の生徒の実態に基づく、適切な支援、合理的配慮の提供ができています	2.91	2.91	授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか	2.95	2.95	授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか	2.86	2.86			
			充実した校内研修を行うことができます	2.51	2.56									
			専門性の向上を図ることができる	2.60										
(3)危機管理体制の構築	⑥火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。 ⑦事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する、教師の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	・合同火災避難訓練 ・寄宿舎避難訓練 ・携帯電話マナー指導 ・SNS等による人権侵害についての生徒指導 ・メンタルヘルス研修会 ・勤務時間適正化の取組 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認(学校・寄宿舎) ・学校保健計画 ・学校安全計画 ・防災安全計画 ・心の教育相談 ・学校いじめ防止基本方針の改訂 ・組織的生徒指導体制 ・授業での安全の徹底 ・三田駅での下校指導	生徒は自分の判断で安全に配慮して行動ができるようになってきている	2.65	2.64	災害時に自分の判断で安全に避難することはできますか	3.10	3.22	災害時に自分の判断で安全に避難することはできますか	2.22	2.41			
			生徒は様々な危険に関する知識や理解を深めることができる	2.63		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	3.28		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	2.41				
							熱中症にならないように自分で気をつけることができますか		3.29	熱中症にならないように自分で気をつけることができますか		2.61		
						あらゆる危機に対して、教職員の危機管理意識の向上を図ることができる	2.74	2.70						
						学校として、あらゆる危機に対する備えができています	2.60							
						危機に直面したときに、組織的に迅速に的確に対応できている	2.77							
(4)開かれた学校づくりの推進	⑧学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。 ⑨学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	・入学式⇒新入生への説明会 ・体育大会 ・卒業式 ・上野ヶ原特別支援学校との対面式 ・学校見学(全11回) ・丹有地区学校説明会 ・三田市巡回指導 ・有馬高等学校農業祭参加 ・青空市場参加 ・部活動対外的活躍 ・介護等体験 ・学校評議員会 ・進路通信 ・支援部通信 ・学校通信 ・寄宿舎だより	学校情報を効果的に発信できている	3.00	3.00				学校情報を受け取ることはできていますか	2.77	2.77			
			家庭との連携は十分にとれている	3.12	2.95				お子様のことで担任や学年との連携は十分にとれていますか	3.12	3.12			
			行事や様々な取組等において地域との連携を図ることができる	2.77										

(3) 令和3年度 兵庫県立高等特別支援学校 学校評価 自己評価と改善の方法

重点目標		職員		生徒		保護者		自己評価 (達成状況)	学校関係者評価 (評議員より)	来年度に向けた改善の方法
実践目標		自己評価 結果	A B C 評価	自己評価 結果	A B C 評価	自己評価 結果	A B C 評価			
<p>【ミッション】一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。                      ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。                      ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。                      ・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。                      ・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。</p>										
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	① 学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。	2.7	B	3.0	B	2.8	B	・生徒は日常の挨拶やマナー・ルールを守る態度が身につけている。 ・自分の思いを伝える力、自己管理能力の育成の点で課題が残る。自分の気持ちを一方的に伝えてしまうことでトラブルの原因になることが多く、どのように生徒に伝えていくかが課題である。 ・生徒は意欲的に取り組もうとしているが、自分でどのように目標をたて、どんな方法で取り組みばいいかわからないでいる状況が見られる。	【生徒の生活習慣の向上】 ・生徒の自己評価は教員・保護者よりも高い。個別の項目をみると「友達と協力して行事等に取り組むことができているか」に関する得点差が最も大きい。「他人を思いやる心を身につけることができているか」については、3者(教員・生徒・保護者)のいずれでも低いのに対し、「協力」に関する項目での差がどのような点から生じているのかを検討することで、生徒に「協力して取り組む」姿勢とはなにかを伝えることができるのではないかと。 ・コロナ禍にいて、感染予防の徹底を心掛ける。基本的な事になります規則正しい生活と不要不急の外出自粛等。 ・挨拶は大変素晴らしいといつも感心しています。 ・自分の思いや困ったことを伝えることができているかという設問の評価が低い傾向にある。いつでも相談しやすい環境を整えるのはもちろん重要だと思いが、ロールプレイや模擬相談を実施する等のSSTの必要があるのではないかと。 ・あいさつや礼儀正しさといった社会人としての基本的なマナーについては、学校生活や授業の中で習慣化され、生徒たちには自然に身につけているという印象を受けました。また長年築き上げてきた企業との信頼関係によって高い就労状況を維持できていることも、御校の強みであると思います。 ・帰宅したら、どこに何を置くのかの声掛けやホワイトボードの活用をしています。	【生徒の生活習慣の向上】 ・授業だけでなく部活動や学校行事の係活動を通じて全教員で生徒に声をかけて小さな変化に気づく機会を作り、いつでも生徒から気軽に相談しやすい環境作りをする。また、寄宿舎とも連携しているいろいろな視点からの生徒情報を共有する。 ・個別の指導計画の様式を大きく変更し、自立活動の視点からのアプローチを明確にするとともに、各教科の評価も記述式に変更して担任以外の教員も一人一人の生徒情報を共有する機会を設定する。 ・校内の職業実習の授業における進め方や評価について、進路指導部や学年担当者が集まって協議検討する時間を設ける。 ・長期の休業中には、ICT機器を活用して学習支援や生活指導を進める。
	② 夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体の計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。	2.7	B	2.8	B	2.5	B	・生徒や保護者は進路や将来に向けた計画について不安を感じ、生徒自身具体的に見通しがたらずに困っている状況がある。特に1・2年生が進路についての情報や相談を十分でないと感じている点が課題である。	【生徒のキャリアプランニング】 ・主体的に行動する力に関して生徒・保護者共に低い。教員の得点からもこの点が課題となっていることが分かる。指示に従う姿勢が一方で指示待ちの姿勢につながっている可能性もある。自分のしたいことや目標を自身で見つけていくための取り組みに工夫が求められているのかもしれない(目標の設定を自身でできるようになるには時間がかかるかもしれませんが)。 ・就職という目標を持ち入学されていると思いますので、生徒さんの希望、特性に応じ、どのような業種に向いているのかを大きな枠組みでも示してあげる事が出来るのであれば示す事で具体的に描けるのではないのでしょうか。企業により考え方は違うと思いますが、社会人としての基本(挨拶、時間厳守等)は同じだと思います。 ・授業や実習を通じて、夢に向かって計画をどう立てていき、保護者と一緒に考えていくか、について更に協議を進めていかれたらと思います。 ・生徒が望む職種とのマッチングが難しい状況のように思います、先生からしましたら適正を判断して進路のアドバイスをされていると思います。しかし望まない就職先になるとミスマッチになってしまう、生徒が望むのならチャレンジ機会を作り体験も重要かなと思います。難しいとは思いますが検討をお願いします。	【生徒のキャリアプランニング】 ・授業や学校行事、部活動で主体的・対話的な学びの視点からの改善と、生徒が発信する機会や自主的な取り組みができる工夫として、生徒自身が目標を立て、どんな方法で実践するのかまで一緒に考えるようにする。 ・担任からだけでなく、専門部担当者や外部講師、実習等での企業担当者、本校卒業生からその必要性と具体的な見通しが持てるような話を聞く機会を作る。
	③ 関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	3.2	A					・コロナ禍で職業実習場所の確保は苦戦したが、関係機関や企業等との連携を積極的に行い、就労状況は順調で全ての項目で高評価であった。引き続き一人一人の特性を理解した就労先を探すように努める。 ・生徒や保護者への進路情報の提供や相談体制のあり方が課題である。	【保護者や地域との連携】 ・連携については、評価も高く、特にありません。 ・コロナ禍ではなかなか難しい問題だと思いますが、一番は経験してもらおう事だと思います。見る、体験すると言う機会を出来るだけ経験できるようにする事と、社会に出ると目上の方ばかりになると思いますので、先生や保護者の方以外の人と接する機会を増やして行くのもいいかもしれません。	【保護者や地域との連携】 ・一方的な学校からの配信や配布だけでなく、ICT機器やアプリを活用した双方向での連携体制を整備するとともに、学校だけでなく家庭でも生徒と保護者が進路について話し合う時間を設定しながら相談体制を作る。また配信についての周知の連絡を発信するようにする。
(2)専門職としての教職員の資質向上	④ 個々の実態把握に基づき生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。	2.9	B	3.0	B	2.9	B	・コロナ禍が一段落して学校再開後の行事では各生徒の実態に応じた支援や配慮をしながら、新しい内容や方法を柔軟に考えて熱心に取り組んだ。教務部や支援部を中心に個別の指導計画の内容の見直しや生徒情報の共有を積極的に行った。	【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】 ・「個々の生徒の実態に基づく、適切な支援、合理的配慮の提供ができている」の評価に対し、生徒・保護者共に「授業や行事において適切な支援により、「わかった、できるようになったと感じたことがありましたか」の評価が揃っており、一人一人に合わせた指導計画や配慮されている。 ・授業や実習を見学させて頂く中ではよく目配りがされていると言う印象です。 ・専門職といえども特別な期待を向けられても厳しいと思います、生徒の意向を確認しながら寄り添う支援が望まれる場合もあると思います。 ・生徒もある程度満足していることがうかがえます。今後ますますデジタル社会が加速していく中で、生活上の様々な手続き等もインターネットを使った方法に変更されていくと考えられるので、それに対応できる能力を身につけられるよう、情報分野の授業の充実が求められると思います。 ・一人一人にあった指導をしてもらいたいと思います。 ・生徒一人一台のiPadの活用、先生方にもICT機器について得意不得意があるかと思いますが、お互い助け合って俊樹技術の共有をはかっていただきたいと思います。また、生徒によっては視覚からの情報、耳からの情報の受け取りに個人差があるかと思いますが、ここの所も配慮していただけたらと思います。	【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】 ・個別の指導計画の様式を変更し、自立活動の重点課題を明確にするとともに、より一人ひとりの実態と課題に応じて作成した目標に対しての評価ができるように文章記述に変更する。
	⑤ 教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	2.6	B					・8月までの校内外の研修はほぼ全てが中止になった。9月以降は実施されたが、対面での研修は十分ではなかった。一方で、生徒一人一台のiPadの活用で全教員が積極的に各教科で取り組み、授業や行事への生徒の前向きな姿勢を引き出すとする工夫が見られた。	【教師の専門性の向上】 ・コロナ禍において今までの生徒への関わり方とは異なった関わり方が求められたり、ICTの活用がより求められるなど研修の必要性が高まる一方、状況的に集団での研修が難しいなどの状況がB評価の背景にあったと考えられる。 ・企業においても、環境配慮等の取り組みの中で、紙から電子化(iPad等)を使用し報告、提出をする機会が増えてきています。最低限の能力は必要だと思います。 ・専門性の向上はとても難しいと思います。実習に関しては、教師の方が実際に企業現場実習をされ、自ら体感し、生徒への指導力の向上へつなげるのも一つ的手段だと思います。 ・教職員の校内研修については、コロナ禍の中で充実した研修が実施できなかったのは仕方がなかったと思うが、それにしても教職員の自己評価が少し低いように思う。オンラインでの研修を充実させる等、さらなる工夫が必要だと思います。 ・先生方の努力されているところはすごいと思います。	【教師の専門性の向上】 ・各教科の3年間を見通したシラバスの作成を通して、卒業までにつけたい力を段階的に設定する。また、iPad等ICT機器の授業での活用方法を明記する。 ・特別支援教育の視点から段階的な授業計画をして、生徒一人ひとりの目標を明確にすることができることを増やす。 ・校内の公開研究授業をそれぞれの教員が計画的に実施する。

A: 3.2 ~ 4.0 (3.2以上ピンク)  
 B: 2.4 ~ 3.2未満 (3.0以上黄)  
 C: 1.6 ~ 2.4未満 (2.6未満青)  
 D: 1.6 未満

(3)危機管理体制の構築	⑥ 火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。	2.6	B	3.2	A	2.4	B	<p>【生徒の危機管理意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と保護者の認識の差が最も大きい。安全に関しては、危機的な状況におかれてどのように行動できるかが問われているが、どの程度、危機的な場面を「具体的に想像できているか」の差が現れているようにも思う。また、インターネット上のトラブルに関しては複雑かつ多岐にわたる。具体的なケースなどを基に生徒自身がどのように行動するかについて主体的に判断できる場面があると良いのではないかと。</li> <li>・避難訓練時等に、時間を計測し時間がかかっているのではあれば実際火災などが起こった場合、身の危険がある事などを具体的な数字で示す事もいいのではないのでしょうか。</li> <li>・天災、不慮の事故等が多い現在、訓練を繰り返し、いざ有事の時に冷静に対応出来る力を身に付けて欲しいと思います。</li> <li>・危機管理に関して生徒と保護者の評価に大きなへだたりはありますが、学校で火災、地震等が起きた際の取るべき行動については生徒は理解できていると考えられます。在学中は学校や保護者がある程度守ってくれますが、社会に出れば一人で解決したり責任を負わなくてはいけない場面もあります。災害や事件は突発的に起こるものであり、その時にまずどう行動すればよいか、誰に助けを求めればよいかを知っていることが重要だと思います。</li> <li>・今の時代、情報の入りが早い。間違った捉え方をしがちである。</li> <li>・生徒の意識と職員、保護者の認識との乖離が大きい。特に保護者の心配が大きいことがわかる。生徒たちはイザという時、自分は大丈夫という自信があるので、逆にその時に動けない、どうしたらいいかわからずパニックにならないか心配。危険な例を具体的に挙げて、〇〇になったら〇〇すると何度も話だけではなく視覚的な所からもアプローチしていただきたいと思います。</li> </ul>	<p>【生徒の危機管理意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守る大切さを機会あるごとに伝え、いざという時に一人で判断して行動できる意識を高め、繰り返し訓練を実施する。</li> <li>・男女関係に関する学習やスマホやICT機器の使用に関して計画的に生徒に実施するとともに、保護者にも学ぶ機会を作る。</li> </ul> <p>【学校の危機管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの避難訓練や集団下校だけでなく、シェイクアウト訓練や抜き打ちの避難訓練などを実施する。</li> <li>・寄宿舎での夜間避難訓練、隣接する上野ヶ原特別支援学校やわくわく村との合同避難訓練を実施するなど、地域での危機管理体制整備を行う。</li> <li>・引き続きコロナ感染症防止策を徹底して実施する。</li> <li>・三田市の福祉避難所として避難対象が明示されたことを受け、校内での体制づくりを行う。</li> </ul>
	⑦ 事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する教師の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	2.7	B					<p>【学校の危機管理体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にコロナ禍における取り組みが難しかったと考えられる。この項目についての経年変化の情報がなかったため、推測となるが寄宿舎を含めてコロナ罹患者を出していないという実績からみて、非常に計画的な取り組みと実施がなされたと考えられる。</li> <li>・日ごろの準備と、些細な事でも報告と情報共有しかならないのでは。</li> <li>・よく対応されてると思います。</li> <li>・安全への意識は生徒の評価と保護者の評価に大きな差が生じており、この傾向は過去から変わっていない。避難訓練の保護者参観や保護者参加型の避難訓練を実施する等、生徒がどのような場面で戸惑うのか、保護者と課題を共有していく必要があるように思う。</li> </ul>	
(4)開かれた学校づくりの推進	⑧ 学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。	3.0	B			2.8	B	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と比較すると保護者が若干低い結果となっている。ホームページやブログなどへのアクセスについては保護者間で差がある可能性もある。保護者等に対して新しい情報へより積極的にアクセスしていただくよう促すことも必要かもしれない。</li> <li>・ホームページやブログは興味のある人、又は関係者しかアクセスしないのではないのでしょうか。何か、普通に目に留まるような発信の方法も必要。年代により情報収集の媒体も違っていると思います。</li> <li>・ホームページ等を通じて情報発信がよく出来ていると思います。</li> <li>・学校の情報発信は充実していると思う。</li> <li>・様々な情報発信を通じ広く学校のことを知ってもらおう努力を重ねておられることは高く評価できますが、まだまだ知名度は低いように思います。高い就職率だけではなく、文化祭、体育祭、部活動といった活動においても生徒の個性が発揮されている御校の良さをぜひ広く知ってほしいと思います。</li> <li>・とりあえず、この学校は「きびしい」という評価が有名なので、学校見学や入学説明会では「やさしい、あったかい」部分もアピールしてください。その時、卒業生の進路ということで、卒業生や有名企業との太いパイプがあることをアピールしてもいいのではなんでしょうか。</li> </ul>	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは学校行事等の情報をリアルタイムで、ブログでは学校情報を日々更新し、また学校紹介動画やシラバスを掲載し、広報活動する。</li> <li>・学校評議員だけでなく、地域の企業の方をお呼びしての授業見学や授業検討会を実施し、本校と生徒たちの学習活動を知っていただく機会を作る。</li> <li>・学校案内の内容を見直し充実させ、デザインを一新する。</li> </ul>
	⑨ 学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	3.0	B			3.1	B	<p>【保護者・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・保護者ともに3点を超えており、十分な連携がとれていると考えられる。特に経年で見ても「お子様のことで担任や学年との連携は十分にとれていますか」の項目に対する保護者の評価は平成29年の2.95から一貫して上昇している。</li> <li>・WEBの活用。</li> <li>・ホームページをどなたの方に見ただけか、閲覧の機会をどう増やすかを協議されていかれてはどうでしょうか。</li> <li>・よく対応されてると思います。</li> <li>・保護者に、具体的にどのような情報を発信してほしいのか聞いてみることも良いのではないかとと思う。</li> <li>・また部活動や文化祭などを通じて、地域の中学・高校・大学生といった同世代の人と交流することで、学校のことを知ってもらうだけでなく生徒の成長にもつながってほしいです。</li> <li>・26期生は先生と保護者、生徒の連携がとれています。コロナ禍で行事ごとの中止が多く、なかなか会えないのが残念です。</li> <li>・地域のイベントやコンサート、スポーツ観戦や映画などを見に行くことも面白いかも。</li> </ul>	<p>【保護者・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行っている学校間交流だけでなく、地域のイベントや交流活動に積極的に参加する。</li> <li>・全県域から保護者の来校時にはできるだけ対面を話しをする機会を作り、また普段から双方向のやり取りができるよう情報機器等の体制整備に努める。</li> </ul>